

氏 名 田村 彩

学 位 の 種 類 修士（看護学）

学 位 記 番 号 修士第215号

学 位 授 与 の 要 件 学位規則第3条第1項

学 位 授 与 年 月 日 平成29年 3月10日

学 位 論 文 題 目 自閉症スペクトラム障害をもつ精神疾患患者の看護に携わる
看護師の困難と対処

審 査 委 員 主査 教授 伊藤 美樹子

副査 講師 中西 京子

副査 講師（学内） 藤本 智美

論文内容要旨

※整理番号	220	(ふりがな) 氏 名	たむら あや 田村 彩
修士論文題目	自閉症スペクトラム障害をもつ精神疾患患者の看護に携わる 看護師の困難と対処		
<p>1. 研究の目的</p> <p>本研究の目的は、自閉症スペクトラム障害をもつ精神疾患患者の看護に携わる看護師が体験している困難の内容と、困難への対処について明らかにし、精神科において、自閉症スペクトラム障害をもつ精神疾患の患者の看護を行う看護師のための一つの示唆とするものである。</p> <p>2. 方法</p> <p>自閉症スペクトラム障害をもつ精神疾患の患者の看護に携わったことのある 9 名の精神科看護師に半構成的面接によるインタビューを行い、質的帰納的方法によって分析を行った。</p> <p>3. 結果</p> <p>自閉症スペクトラム障害をもつ精神疾患患者の看護に携わる看護師の困難と対処として、【社会性のなさで孤立】【自己中心性が対人関係を悪化】【一貫性のない子育て環境で成長】【患者役割に不適応】【自傷や他害で感情表出】【自傷や他害を回避できるようケア】【行動の振り返りで教育】【症状や行動のパターンを考慮】【精神症状と自閉症スペクトラム障害の特性の境界が不明】【手ごたえのない患者の反応】【先例のない看護を試行錯誤】【患者の味方であることを主張】【辛抱強く念入りにケア】【社会参加に向けて出会いを誘導】【障害にとらわれずに看護】の 15 のカテゴリーが抽出された。</p> <p>4. 考察</p> <p>自閉症スペクトラム障害をもつ精神疾患患者は、【社会性のなさで孤立】し、【自己中心性が対人関係を悪化】させていた。それは、【一貫性のない子育て環境で成長】してきたことも理由の一つとしてあると考えられている。それらのことから、入院生活では【患者役割に不適応】を起こし、【自傷や他害で感情表出】をしているようであった。自閉症スペクトラム障害をもつ精神疾患患者の看護に携わる看護師は、【自傷や他害を回避できるようケア】をし、【行動の振り返りで教育】し、【症状や行動のパターンを考慮】するが、自閉症スペクトラム障害をもつ精神疾患患者の特徴を考えると、入院している患者は精神疾患による【精神症状と自閉症スペクトラム障害の特性の境界が不明】であること、【手ごたえのない患者の反応】があることで【先例のない看護を試行錯誤】しているという状況にあったため、【患者の味方であることを主張】しつつ【辛抱強く念入りにケア】をし、【社会参加に向けて出会いを誘導】するといった【障害にとらわれずに看護】をしているということが明らかになった。</p> <p>5. 総括</p> <p>自閉症スペクトラム障害をもつ精神疾患の患者は社会性に乏しく、患者役割に適応できない現状があった。看護師は患者に対し、特性に配慮しながら自傷や他害を回避できるようにケアや教育を行うが、精神疾患による症状と自閉症スペクトラム障害の特性の境界が不明であることと、看護に対する患者の反応の手ごたえのなさが看護に困難感を与えていた。看護師は特性に理解を示し受容しながらも、障害にとらわれすぎることなく、患者に今発生している問題に対し何が提供できるかを考え柔軟に看護することが重要である。</p>			

(備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1, 200 字程度)
2. ※印の欄には記入しないこと。